

//<5 群 (1 本鎖(-)RNA) パラミクソウイルス、ニューモウイルス属> **RS ウイルス :**

Respiratory Syncytial virus : は新生児の下部呼吸器感染で重要なウイルス。 A,B の 2 グループ。 **RS 肺炎 (5 類定点)** を起こす。 表面に G 蛋白 (細胞への吸着) と F 蛋白を持つ。 F 蛋白は吸着後エンベロープと細胞膜が融合する時と感染細胞が周囲の細胞と合胞体 (syncytium) を作る時に働く。 RS ウイルスは飛沫や手指を介して感染。 成人ではウイルスは上気道にとどまり肺炎には至らないが、生後 3 か月間は危険。 RS のワクチンは症状を悪化させるので、疾患の成立に免疫反応が関与していると考えられる。 2 才までに 100%罹患。「チェック RSV」「ラピッドテスト RSV-アデノ」迅速キット (保険適応)。 パリビズマブ (palivizumab) モノクローナル抗体 (シナジス®) : 1 回約 156,000 円×約 5~7 ヶ月分 (RS ウイルスの流行期間) 先天性心疾患児等の予防のみ。 生涯顕性感染を繰り返す例も。 //<5 群、同上、メタニューモウイルス属>

ヒトメタニューモウイルス : RS ウイルス関連 (2001 年オランダで発見)、冬季の気道感染症の 15%を占める。 RS と同様の症状。 迅速検査 (プライム) チェック hMPV (保険適応) あり。 対症療法。 // <2 群 (1 本鎖 DNA) エリスロウイルス属> **パ**



パルボウイルス : **伝染性紅斑 (リンゴ病)**、1983 ヒトパルボウイルス B19 (human parvovirus B19) が原因と提唱、その後確認。 パルボは増殖のためにアデノウイルスなどのヘルパーウイルスの同時感染が必要なものがある。 赤血 (芽) 球表面の p 抗原に結合するので正しい名称は**エリスロウイルス**。(犬、猫。人など)

種が違うと感染しない。 Parvo (ラ) は「小さい」の意、B19 は 1975 発見時の試験管ラベルがたまたま B19 であった。 **5 類小児科定点、学校保健法に規定はない**。 5-6 日の潜伏期、感冒症状に続き特徴的な顔の紅斑、次いで四肢の網目状発疹、関節炎。 看護学生による院内集団感染 (飛沫) の例もあるが発疹出現時には伝染力はないので予防は困難。 TORCH シリーズではないが、流産、胎児水腫の原因。 パルボ B19 は輸血検査をすり抜ける。 診断は PCR (保険外)、ELISA : IgM, IgG (ペア) 抗体。 ワクチンは無い (ヒト)、対症療法。 //<4 群 (1 本鎖(+)RNA) :

ピコルナウイルス属、ピコ「小さい」、RNA[ルナ]> **エンテロウイルス : EV : ①へ**

ヘルパンギーナ Herpangina ((独) ヘルペス様水泡+喉 (狭い意味も)) を起こす。 **5 類定点**。 腸管内で増殖、**ポリオ、コクサッキー** (Coxsackie, NY で発見)、**エコー** (Enteric Cytopathogenic Human Orphan virus) の各ウイルスを含む。 新規発見は EV+番号で命名。 **②手足口病 (5 類定点) :** EV71 型ウイルス感染。 //<1 群 (2 本鎖 DNA)> **アデノウ**



イルス : **①咽頭結膜熱 (プール熱)**、**②流行性角結膜炎 (EKC)** の原因。 迅速はアデノチェック。 **5 類小児科定点、学校保健法では症状消失後 2 日間欠席**。

ヘルペス (herpes) の語源はギリシャ語の「這う (= creep)」あるいは這う物である蛇。 痛み、あるいは水泡が這うようだからか?